

# 住民に安全安心なため池整備を



都築 幸夫 議員



## 廃池の整備検討を鋭意進める



住宅地にある農業用ため池（岩堀区）

**問** 大規模な地震や豪雨による被災防止を目的として、農業用ため池の整備を進めている。本町の取り組みを問う。

**答** ため池管理、保全の取り組みの進捗状況を問う。

**問** 環境経済部長▼対策が急務であるため池の、優先度に応じ

て順次工事を実施していきたい。

**問** 岩堀区の矢尻池のように、都市化により使われなくなった農業用ため池も、堤体決壊での被害を防ぐために、防災工事を進めるべきではないか。

**答** 地域住民の十分な理解を前提とした

上で、防災工事の検討を進めるべきと考えている。本町で、該当するため池は矢尻池と認識している。

**問** 使われない農業用ため池は、堤体の耐震補強ではなく、廃池を選択すべきでは。

**答** 堤体をV字に開削して貯水機能をなくす開削廃止工法、あるいは池全体を埋め立てる埋め立て廃止工法の2種類が考えられる。

**問** 廃池の場合、跡地をどこまで整備してもらえるのか。補助金でやれるのか。

**答** 開削廃止工法の場合は、水が干し上がった池の底が現れた状態までの整備。埋立廃止工法の場合は、住民広場など公共の用に供されることを実施条件で整備。

土地改良区を事業主

体とする団体事業の制度が設けられている。

**問** 廃池の場合、どんな進め方になるか。

**答** ため池管理保全法に基づき各種手続、次に地域住民等関係者の合意、団体営事業等の事業実施、地元土地改良区による廃池整備後の跡地維持管理となる。

**問** 矢尻池を、住民に安全安心なため池整備を。

**答** 県の廃池メニュー等を視野に、整備検討を鋭意進める。

**J A幸田前横断歩道に信号機を**

**早期設置に向け要望を継続する**

**問** 県道岡崎幸田線のJA幸田支店前の、通学路である横断歩道

は、交通量が大変多く危険である。

**問** 信号機設置要望が出て、7年間未設置のままである。早急に押しボタン式信号機設置を。

**答** 総務部長▼早期設置に向けた要望を継続していきたい。

**問** 「ハンド・アップ運動」小中学校の交通安全教育に展開しないのか。

**答** チラシ配布・教室開催等で啓発している。

**問** 「止まってくれてありがとう」に、「ハンド・アップ運動」を加え、通学路横断歩道の安全対策に。

**答** 二つの運動を有効にリンクを図り、一層の交通安全推進に取り組みたい。



いなよし てるお  
稲吉 照夫 議員

## 業務の交通整理が出来る組織か

## 現状分析し体制づくりに努める



町職員の精神的不調による休職者、退職者が増えている。町民の安全・安心を守る町職員の業務状況を確認し、以下を問う。

**問** 新規採用試験の時期が2年ほど、冬季になっている理由は、

**答** 総務部長▼新型コロナウイルス感染症流行のため変更をした。

**問** 着任初期の勤務に対するフォローはどのようにしているか。

**答** 専門的知識を要する窓口対応などは先輩職員と共に現場を重ね習得している。

**問** 各所管ごとでグループ制をとっているが、その効果は。

**答** 多様な相互応援体制により効果的な業務の推進ができてい

**問** 部課長参加のミーティングはパワハラになっていないか。クレームなどの対応について弁護士役割は。

**答** 事前・事後における対応や、文書作成上の相談など行う。

**問** 業務量と職員数のバランスは適当か。

**答** 職員の療養、退職などにより業務量が多くなっている部署があることは認識している。

**問** コロナ禍で業務量増加の中、交通整理出来る組織体制か。

**答** 町長▼現状を分析しながら新しい体制づくりに努めるべきであると認識している。

2世帯が住める  
区画の計画は

組合設立後に計画を投げかける

荻谷地区、区画整理

事業が進められている。災害に強く、2世代、3世代が同居し、好循環のできる地域形成を。

**問** 区画整理地区と、下流地域の水害対策は。

**答** 事業調整監▼事業区域内に調整池を整備する。下流地域は、

広田川拡幅、菱池遊水地の整備促進を進める。

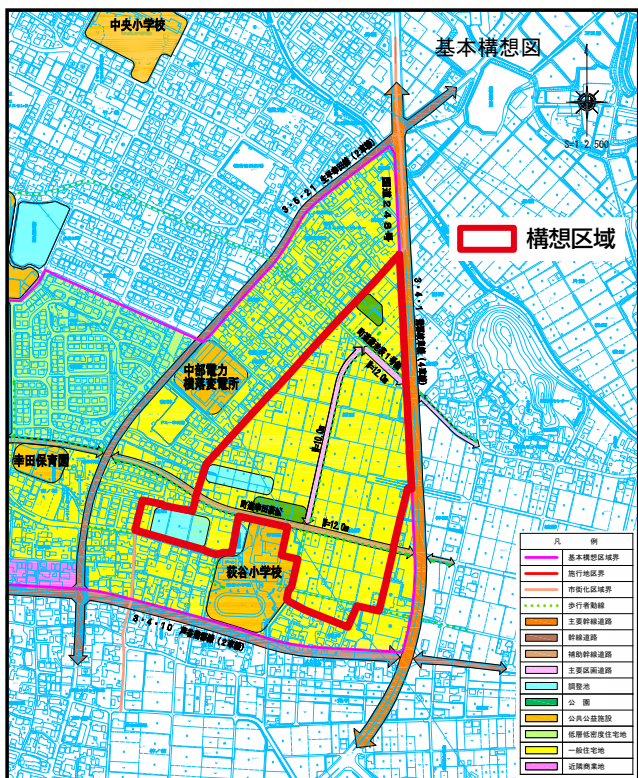
**問** 2世帯が住める広めの区画の計画は。

**答** 組合設立後に計画ができるか組合に投げかけていく。

**問** 将来お年寄りの地域にならない工夫を、考えてほしいが。

**問** 人口増が続くよう結婚適齢期男女が働ける事業所誘致を。

**答** 荻谷土地区画整理事業により、若い世代の流入で荻谷学区における世帯間のバランスが取れていくと考える。



荻谷地区区画整理事業構想図